



## 野洲市について

野洲市は、滋賀県南部の湖南地域に位置する。市の東南部は三上山を中心とする山地で、そこからびわ湖に向かって大きな平野が広がる。市の基幹産業は、米づくりを中心とする農業で、市域は「近江米」の産地として古くから「豊穰の里」と呼ばれる。また、大規模な電気機械器具を製造する企業が立地するなど、製造業も市を支える重要な産業の一つとなっている。



## 地先のびわ湖の現状

当会の活動拠点である野洲市菖蒲地区は、びわ湖東岸部に位置する。地先のびわ湖湖岸には、松並木が続く白砂青松の景観が形成されており、かつては湖水浴場として多くの市民で賑わった。また、遠浅の砂浜湖岸周辺にはシジミをはじめとする多くの魚介類が生息・回遊しており、シジミ漁やエリ漁、刺網漁など盛んに営まれてきた。

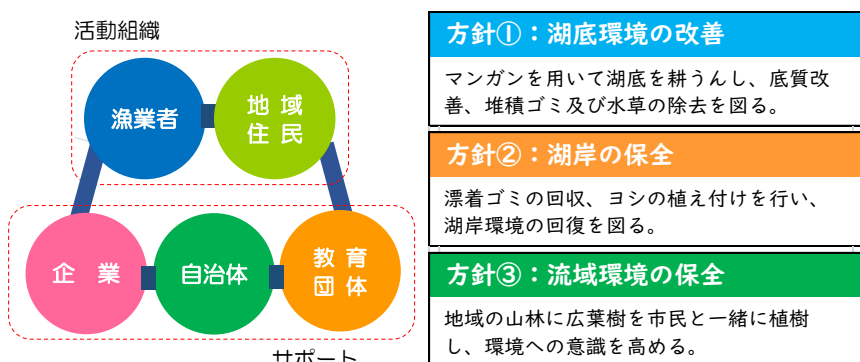
しかし、昭和 50 年代に湖岸道路が整備されて以降、湖岸に広がっていたヨシ帯のほとんどは消失した。また、高度成長期以降のライフスタイルの変容から、びわ湖と市民とのつながりが希薄化したためか、生活ゴミの遺棄・流入が増加した。また、湖底における泥の堆積や水草の繁茂が、近年、顕著になってきた。

こうした湖内環境の悪化は、地先で漁獲されていたシジミ等魚介類資源の減少を招いており、その回復に向けた取組が喫緊の課題となっている。また、びわ湖の環境を持続的に保全して行く上で、市民一人ひとりが環境への理解・意識を深める必要があることから、地域一体となった取組として活動を推進していく必要がある。



## 組織の設立と活動の目的・方針

上記課題の中、地元の漁業者や、地域の環境保全に関心の高い地域住民（集落の仲間、農業者、会社員）が集まり、「野洲市びわ湖を守る会」を平成 25 年度に設立した。活動組織の体制や方針は、下記のとおり。



## 地域のみんで地先の湖を保全する

### (1) 湖底環境の改善

底質の改善、湖底ゴミや大量繁茂する水草の除去を目的に、湖底耕うんを実施する。方法は、マンガン（シジミ漁用の鉄製カゴ型漁具）で湖底を攪乱する。また、マンガンによって回収されたゴミや水草を適正に処分する。活動は、漁業者が降水量の低下する 10 月頃に行う。



### (2) 湖岸の保全

湖岸の保全として、漂着ゴミの回収や減少したヨシの植え付け（移植）を行う。ゴミの回収は、構成員全員で定期的に行う（原則毎週日曜日）。

ヨシの植え付けは、地域の団体や企業等と一緒に協働で作業する。また、別途、教育・学習活動として、地元小学校 4 年生に苗づくりから植え付けまで体験学習させている。



### (3) 流域環境の保全

管理が行きとどかずイノシシの被害で困っていた山林部の旧茅畑の土地に広葉樹を植樹し、漁民の森づくりとして取組を行う。また、植樹は、地元や近隣の企業、スポーツ少年団やボーイスカウトなどの子どもたちと一緒にいき、環境保全への意識を高めてもらう。



## 活動の効果と今後の方針

環境回復のバロメーターと考えるシジミ・イシガイの単位時間あたりの採捕量は、ここ 6 年 500 個程度を平均に、増減を繰り返しながら推移している。一頃、二枚貝が全く獲れなくなったことを考えると資源は回復傾向にあるものの、その水準は未だ低位にある。

現在、地域の多くの企業や住民の賛同を得て、一緒に取組を進めることができている。今後も、地先びわ湖の環境回復に向けた取組を地域一体となって進め、次世代の子どもたちに引き継いでいきたい。

シジミ・イシガイ採捕数（個/時間）

